



あおもり 町連だより

第178号

平成19年10月発行

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

平成
19年度
市政懇談会

「地域コミュニティと市民参加のまちづくり」

市民協働で多様なニーズに対応

青森市町会連合会は8月26日(日)、市福祉増進センター(しあわせプラザ)で「地域コミュニティと市民参加のまちづくりについて」をテーマに、19年度の市政懇談会を開きました。市がさきに策定した「市民協働」の説明があり、市民と市が良きパートナーとして連携・協力してまちづくりに取り組んでいくことに対し、関心を呼びました。

あくまで市民主役で推進

市政懇談会には町会連合会から44人、市側から佐々木誠造市長はじめ市理事者ら10人が出席。佐藤久雄町会連合会会長が、市の地域コミュニティ活性化事業補助金などへのお礼を述べたあと「市が検討している“ごみ有料化”に関しても意見交換をしていきたい」とあいさつ。佐々木市長は「大きな市民参加による市民主役のまちづくりを進めていく方針であり、忌たんのないご意見ご提言をいただきたい」と述べプロジェクターを用い、情報提供を行いました。

この中で、佐々木市長は「市民協働方針」について、基本理念から市民協働のさまざまな事例を上げて紹介。「市民協働で、いつまでも暮らしていきたいと思うまちを、一緒につくっていきましょう」と呼びかけました。

ごみ有料化でも意見交換

このあと佐藤会長を座長に、市が現在検討しているごみの有料化後の収集方法等を含めて意見交換を行いました。

初めに楠美富士男大町町会長が町会の治安面か



情報提供する佐々木市長(左端)

ら暴力団事務所の撤退に結びつけた実績を述べ、次いで館田紀代文油川下町町会長がごみ減量化と資源物の集団回収、ごみの有料化に当たっては袋に名前を書かせるなど、責任を持たせるようにしてはどうかと提案。また工藤彬篠町町会長はルール・マナーが乱れている現状から、ごみの有料化をする場合は町会に今以上に負担がかからないようにしてもらいたい。今一度、マニュアルを作って配布すべき、と述べました。このほか出席者4人からごみ問題で発言がありました。

最後に市長は「これまで、ごみの有料化は避けてきましたが、有料化によって減量化される方向にあり、有料化の問題が出てきました。目下、審議会に諮問中です」と述べました。

紙面紹介
主な記事

緊急地震速報の利用と心得 [2面]
町会の事務担当者研修会 [3面]
交通事故のない明るい町を [4面]

おらほの自慢 小柳町会、東桜川町会 [5面]
頑張っています 幸畑団地西町会子供会 [6面]

「緊急地震速報の利用と心得」 青森地方気象台 山口防災気象官

まず身の安全を確保すること

10月1日から「緊急地震速報」がスタートしました。これは、地震の大きな揺れがくる前にお知らせするもので、それも地震までに数秒から数10秒しかなく、震源が近ければ間に合わない場合もあります。大いに関心を払いたいものです。

町会連合会では、これに先立って8月30日(木)県民福祉プラザで「緊急地震速報の利用と心得」と題して町会長特別研修会を開きました。講師は青森地方気象台の防災気象官・山口寛司氏です。

山口防災気象官は、プロジェクターによる映像を用いて緊急地震速報の技術から説き起こしました。それは震源に近い地震計が揺れ(P波)を検知し、直ちに震源の位置やマグニチュードを推定して、後からやってくる大きな揺れ(S波)が迫っていることをお知らせする仕組みです。

緊急地震速報を発表する条件は、地震波が2点以上の地震計で観測され、最大震度が5弱以上と推定された場合。また、その内容は地震発生時刻、地震の震央、震度5弱以上が推定される地域及び震度4が推定される地域といえます。

速報内容は「一般向け」と「高度利用者向け」



緊急地震速報について講演する山口寛司氏

(特定利用者)があり、一般向けはテレビ・ラジオや防災無線等で知ることができますが、家庭では「まず身の安全を確保する」「頭を保護し、大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる」「その場で火を消せる場合は消し、火元から離れている場合は無理して消火しない」など関心を呼びました。

また自動車運転中は「追突を避けるため、ハザードランプを点灯した後、急ブレーキを踏まずに、緩やかに減速する」、屋外では「看板や割れたガラスの落下に注意し、ビルから離れる」「ブロック塀の倒壊に注意する」、エレベーターでは「最寄の階で停止させ、すぐに降りる。とにかく全部の階のボタンを押す」など多くの心得を学び、出席者は地震対策を新たにしていました。



要望書を読み上げる佐藤会長

ごみの有料化した場合 の収集方法等について

佐藤久雄町会長、市長に要望書

佐藤久雄町会連合会会長は、8月26日(日)の市政懇談会の席上、佐々木誠造市長に対し「ごみの有料化した場合の収集方法等」について要望書を提出しました。

①いま一度、ごみ出しルールが順守されるようマニュアルを全世帯に配付して頂きたい。②有料

化した場合も不純物の混入などで収集されないごみの後始末などで、いま以上に町会に負担をかけることのないよう、また混乱を引き起こすことがないよう、町会の意見を十分聞いて収集方法などを検討していただきたい—というものです。

街路灯、側溝整備でも要望書

佐藤久雄町会連合会会長は7月17日(火)、佐々木誠造市長に対し、①新設街路灯の設置促進など②道路側溝の整備促進について要望しました。

①の灯具を交換する場合は、対応が可能であれば他のメーカーの器具でも速やかに整備いただきたい。汚れている場合「雨よけカサ」の清掃、また灯管の交換は速やかに完了していただきたい。

②で町会及び地区連合町会から整備の要望があった場合、交通安全上及び水害防止などの観点から速やかに整備の促進を図っていただきたい。

町会の事務担当者研修会

関心高く、活発に意見交換

3町会ずつ事例発表も

町会連合会の各部会は、昨年度に続き町会的事务担当者を対象に研修会と意見交換会を次の通り



事務担当者研修会で
あいさつする佐藤会長

開催しました。

この研修会と意見交換会は、町会活動を支援するための情報提供の一環として実施しているものです。

2回目の今年は、昨年アンケート結果を踏ま

市の除排雪事業報告会

住民に優しい除雪を

町連から要望相次ぐ

青森市の除排雪事業に関する報告会が、6月21日(木)市役所柳川庁舎で開かれ、町会連合会から正・副会長、常任理事、建設部会員ら43人が出席し、



除排雪の問題点を
指摘する出席者

18年度の実施状況、19年度の除排雪事業方針について市側と意見を交換しました。

町会連合会からは「雪捨て場のない狭い道路の除排雪」「業者の見直し時期が遅い」「除雪による物損の処理が遅い」「交通整理の誘導員配置」「雪弱者が多くなっており、玄関前などに雪の塊を残さない指導を」などの質問や意見が出され、市側はチェック体制やパトロール監視の強化、評価制度を利用して除排雪のレベルアップ、市民雪寄せ場などの拡大、物損など町会等からの連絡を得ながら指導をしていきたい、と応えていました。

部会名	開催日	会場	研修及び事例発表テーマ等
総務	8.29 (水)	教育研修センター	・研修テーマ「地域の青少年健全育成活動のあり方について」 ・事例発表テーマ「青少年の健全育成活動について」
建設	9.5 (水)	同	・研修テーマ「気象予測の話」 ・事例発表テーマ「アパート等入居者の町会加入促進と町会費徴収について」
交通安全防犯	9.10 (月)	同	・研修テーマ「地域の安全・安心活動について」 ・事例発表テーマ「地域の安全・安心活動について」
環境衛生	9.11 (火)	同	・研修テーマ「ごみの減量化について」 ・事例発表テーマ「有価資源物の集団回収の取り組みについて」
福祉	9.12 (水)	同	・研修テーマ「生活習慣病と予防について」 ・事例発表テーマ「健康づくり活動について」
女性	9.13 (木)	同	・研修テーマ「男女共同参画の推進状況と課題について」 ・事例発表テーマ「女性部活動について」

えて、各部会がテーマを設けて3町会ずつ事例発表も行いました。

出席者は熱心にメモを取り、疑問な点について質問をするなど活発に意見交換が行われました。

また各部会が行ったアンケート調査では、今後も継続開催することを望む意見が多数寄せられました。

新任町会長研修会

社協との関わりなど学ぶ

町会連合会は7月5日(木)、市福祉増進センター(しあわせプラザ)で今年度の新任町会長研修会を開き、対象者45人のうち28人が出席しました。

佐藤久雄町会連合会会長あいさつのもと、「地区社協と町会の関わり」について市社会福祉協議会の秋元武磨事務局長が協議会組織や老人福祉、児童福祉、住民福祉、募金活動などについて説明。



講師の話に聴き入る出席者

引き続き鈴木鐵榮事務局長が事務取り扱いについて分かりやすく説き、質問にも応じました。

このあと、町会の取り組み事例として油川下町町の館田紀代文町会長が「資源ごみの集団回収」、新長島町の櫛引茂樹町会長が「若い世代の町会活動への取り込み」と題して発表し、意見交換を行いました。

連
合
会

交通事故のない 明るい町を

決起大会・パレード、祈願祭行う

〔交通安全・防犯決起大会とパレード〕地域内での交通事故防止と防犯意識の高揚を図るため、各地区の連合町会では交番・駐在所・老人クラブ・婦人部・交通安全協支部と防犯協支部などの協力、さらには児童生徒の参加を得て行っています。

本年度は市町連への届け出では、15連合町会（参加予定4,420人）が計画し、9月30日現在で14連合町会が実施しています。

〔市民交通安全祈願祭〕市町連では、夏の交通安全40日運動（7月20日～8月28日）の初日、廣田神社で市役所・青森警察署・交通安全協会の関係者にも参加いただき、市町連役員ら併せて38人が出席。佐藤久雄会長はじめ出席者全員が玉ぐしをささげ、交通事故のない、安心・安全な町づく



南部第八区連合町会の交通安全パレード



町連役員らが出席して安全祈願祭



ロードミラー設置の
実地調査

くり実現を祈願しました。

〔自転車マナーアップ大会〕市町連など6団体共催で、7月23日に中央自動車学校で9チームが参加して開かれました。

この大会は、高齢者の事故防止と技術の向上を目的とするもので、参加者は老人クラブ等の呼びかけに応じたものです。

1チーム60歳以上3人（うち女性1人）で構成、走行マナー・走行技術・常識問題の総合得点で順位を競います。本年度は東千刈町会チームが優勝し、9月の県大会への出場権を得ました。

〔ロードミラー設置調査〕27（連合）町会、市議会議員などから市に設置要望が出されている57カ所について、市関係職員、市町連交通安全部会員でチームをつくり6月27日から29日までの3日間、実地調査しました。

うち町会関係は36カ所で、後日開催した調査検討会議の結果を市町連を通して各町会長に通知。内訳は設置必要2カ所、条件付き設置と継続検討合わせて12カ所です。

町会未加入など話し合う

東京都町連と意見交換会

市町会連合会は6月19日（火）、東京都町会連合会一行22人を迎え、県観光物産館アスパム9階（津軽）で情報交換会を開きました。

佐藤久雄会長、石川誠一会長（東京）が相次いであいさつをしたあと、双方の担当者から組織の概要説明がり、当面する問題点について意見を交換しました。

都町連は、東京23区の3,889組織で構成され、



東京都町連との意見交換会

全国自治会連合会に加盟。運営形態は青森と異なりますが、町会連合会の抱える問題点はやはり「町会への未加入」などで、共通の悩みとして短い時間ながら大いに話し合いました。



老いも若きも一緒に 明るい町会へ活動継続

当町会には、328年前に再建された由緒ある小柳稲荷神社と昭和60年に建てられた市民館があります。

神社では毎年、宵宮、神楽のほか芸能大会が行われ、大変賑わいを見せております。夏休みには、多くの子供たちと年配の方が一緒になって、神社の境内でラジオ体操を行い、終了後はごみ拾いなどの活動をしています。

小柳町会

小柳市民館では、各種の講演会、敬老会、講習会、自主防災訓練、バザーなどさまざまな行事を実施し、近隣町会との交流の場にもなっています。

年中行事でもある一掃きデーや緑化活動には、町会、女性部、高齢者クラブがこぞって参加し、ごみ集積所周辺はたくさんのお花々で道行く人の心を和ませています。女性部によるバザーは特に好評で、今年も予定しています。

このように町民が力をあわせ、明るい町会を築くために活動を続けているところです。



お
あ
ほ
の
自
慢



日帰り旅行と納涼祭 住みよい町づくり掲げ

昭和52年に町会発足以来、“融和と協調”をスローガンに住みよい町づくりを目指し、「日帰り旅行」と「納涼祭」の二大行事で町会を盛り上げております。

6月の日帰り旅行は年中行事として継続し、今年度は「つがる地球村森田」に行ってきました。途中、五所川原市の「立佞武多の館」を見学しましたが、初めて見る方々はその雄

東椋川町会

姿、大きさに感動していました。やがて目的地に到着し、入浴、懇親会と続き、各種ゲームを行い、一層の絆を強めてまいりました。

8月の納涼祭は以前、屋外で盆踊りとして開催しておりましたが、近年、天候の関係から中筒井分館で盛大に行っております。当日前半は、子供会を中心に各種ゲームなど健全育成に努め、後半は町会の親睦を狙いに懇親会、ビンゴゲーム、くじ引き、カラオケ大会と、まさに芸能町会へ一直線でした。

世帯別参加率は48%と好調で、“地域社会への奉仕の精神”高揚に努めております。



頑張っています

ドッジボールに猛特訓

八甲田山を背にした住宅団地の一角にある当町会。子供会にはドッジボールクラブがあり、昨年夏に青森県代表として、また今年春には東北代表として、全国大会に2度出場しています。

今は秋の全国大会出場に向けて、猛特訓が続いています。そんな中で、今年から始まった町会の花壇づくりにも子供会が参加。夏休み期間中の朝のラジオ体操が終わってから、みんな一緒になって花壇への水遣りや草取りをして、花

幸畑団地西町会子供会



ドッジボールの練習のあと花壇へ水遣りをする子供たち

を育てました。

子供たちは、ドッジボールを通して心や体を鍛え、花壇づくりで思いやりや慈しみの心はぐくみ、地域へ若いパワーを発信しています。

青森・函館市町連の交流会

当面する問題で意見交換

2年後の再会を誓う

青森・函館市町会連合会は、9月25日(火)に函館市で青森側29人、函館側34人が出席して交流会を開きました。

今回は、隔年開催になってから3回目の交流会



あいさつをする佐藤会長

となりましたが、今後も継続開催することを前提に相互の負担軽減を図るため、日帰りでの交流になりました。

また、交流会の進め方も部会同士の交流をやめ、出席者全員参加による全体交流で意見交換を行う方法をとりました。

当日は函館市到着後、昨年オープンした中央図書館、五稜郭タワーを見学後、交流会会場(マリエール函館)で全体交流会を行い、青森側提出の「町会事業への参加・協力者が少ない悩みについて」及び函館側から提出された「町会等未加入者の加入促進について」、それぞれの町会連合会が取り組み事例を紹介しながら、抱えている問題について活発に意見交換を行い、2年後の再会を誓い合いました。

哀悼録

コスモス町会長 内山 克己 殿

(平成19年8月30日ご逝去)

慎んで哀悼の意を表します。

浪岡町内会連合会とも交流会

今後についても意見交換

新青森市が平成17年4月1日にスタート後、初めてとなる青森市町会連合会と浪岡町内会連合会(加入37町内会)との交流会を9月28日(金)に中世の館研修室で青森側12人、浪岡側11人が出席して開きました。

当日は、津川重義浪岡町連会長と佐藤久雄青森市町連会長があいさつし、浪岡・青森の住民自治組織の状況説明とそれぞれの連合会・町会が抱えている課題などについて活発に意見交換を行い、今後も継続して交流し合うことを誓い合いました。

編集後記

「燃えるごみの収集日」に燃えないごみを出したり、燃えるごみに燃えないごみを混入しているなど、ごみ出しルール・マナーの乱れに、どの町会でも大変頭を痛めています。

7月の市政懇談会でも、町会長方から意見や提言が出されました。市が、現在検討している「ごみの有料化」に当たっては、「町会に今以上の負担がかからないようにしてほしい」「ごみ袋に名前を書かせ、責任を持たせるようにすべき」というもので、この問題については市ぐるみで対策を検討していく必要があるようです。